



総会 だより  
高三 両角みさ子  
(旧姓 西入)

初めて出席する同窓会。私

は半袖にしようか、長袖かと悩んだ末、学友と待ち合わせをして会場へ。六年間学んだあの時から四十四年も過ぎた今、不安と期待が交錯し、ど

きどきしながら受付へ。高三の出席者が多いのでひと安心。還暦をすぎたのにあの頃の十代の乙女の顔が思い出され、なつかしく再会を心から喜び合いました。

上田高女、染谷丘に学んだ事がその後の生き方に大きな勇気と誇りを与えてくれたように思います。会食の間に校歌を熱唱し、思い出話しに花が咲きました。校庭を耕し、畑にしたこと、大正山まで歩いて行き野菜運びや草取りをしたことなどが走馬燈のように蘇ってまいりました。

これからは皆様と共に参加した会を盛り上げ楽しいつどいの場になりますよう心から願っております。



信濃毎日新聞等でご存じの方もおられましたが、去る二月二十四日(土)『東京上田会』が設立されました。設立趣

意書によれば、この会は「上田地域出身者、及びその関係者、また上田を愛し応援する人をもって組織し、会員相互の親睦と連携により人的交流の輪を広げると共に、愛する郷里の発展に寄与し、更に国際化時代を迎え、グローバルな発展を目指していく事」を目的としています。

お誘いを頂き、故郷上田の発展は私たちの母校の発展にもつながると考え、とりあえず数名の同窓会関係者で参加させて頂きました。この秋には、地元から市長をはじめ市の関係者の方々を多数お招きし、盛大な設立記念の集いを開く予定とお聞きしております。

次に、故郷上田の再生に情熱をかける或る方の率直なお気持ちをご紹介いたします。

あなたも、わたしも東京上田市民

『東京上田会』が発足

私たちが育んでくれた郷土

上田地方は、今大きく変わろうとしています。上田を訪れた漫才師の青空千夜さんが「ガキの頃から上田駅前を見てきたが、変わったのはイトヨーカドーが出来たくらいじゃないか。他は全く変わっていない、いったい何だこれは」と言われたのはつい四、五年前の事です。

しばしば訪れる度に同じ思いをし、このままでは、ますます時代の落ちこぼれになってしまふと寂しい思いをしてきたものです。

井原西鶴の「日本永代蔵」にも上田の隆盛ぶりが記されているように、かつての上

田は豊かな自然や地理的条件を備えた産業、文化を背景に全国的にも名だたる商都でした。しかし戦後の高度経済成長期、重厚長大産業が主流だった時代には遂に取り残され、東京からは近くて遠い所となっていました。二十世紀を目前に光が見えてきました。来春には上信越自動車道「上田インター」が開通、

議に出て、六時からサントリ

ーホールで、四時の新幹線の上京した友人夫妻とコンサートを聴き、終わって夕食を共にしながら団欒、東京駅発最終で見送り、愛妻と家路につくといったことができるようになるのです。

一時間半はサラリーマンの平均的な通勤時間でしょう。名実共に上田は東京の奥座敷となります。いや、まさに通勤圏であり、生活圈となります。信州上田と東京を共有できるのです。このメリットを生かし豊かな生活設計を一緒に考え享受しませんか。

故郷復権、新しい上田の都市づくりに参加し、あなたの知識や経験や人脈を提供してください。昔懐かしい八日堂縁日(一月)、別所北向観音の節分会(二月)、祇園まつり(七月)につづく上田わっしょい(七月)、千曲川の花火大会(八月)などにも参加しませんか。郷里ではそれらを待っています。

おしゃべりして美味しいものが食べられ、粋な出会いがあるような、心ときめく街づくりに、ちょっとおせっかいをしたいのです。街に人が集い、買い物や遊歩が楽しめ、美術や音楽など文化に触れることが出来る街、老若男女、外か

ら人が群れるような街づくりは都会生活を経験している私たちの知恵や助言がきっと役立つと思います。街づくりは人づくりです。郷里の人々と私たちのネットワークづくりがまず第一と考えました。心はずませずに行きたくなるような上田、都会の仲間と気軽に行き来し、海外からの友人知人を連れて行っても満足してもらえ、日本にもこんなに好いところがあったのかと褒めてもらえるような街づくりをしてもらうために私たちもお手伝いしようではありませんか。

収支計算書(平成7年4月1日~8年3月31日)

収入の部		支出の部	
項目	7年度決算額	項目	7年度決算額
前年度繰越金	599,691	総 会 費	409,778
年会費	521,000	渉外費	30,000
総会費	259,000	通信費	91,020
寄付金	83,000	印刷費	11,690
補助金	5,000	費	4,000
受取利息	4,165	用品費	881
		会議費	64,345
		交通費	44,580
		図書料	60,000
		手数料	28,250
		小計	744,544
		次年度繰越金	727,312
合 計	1,471,856	合 計	1,471,856

編 集 後 記

☆東京同窓会報呼応は一九八六年十二月二十日に創刊されました。小林ふき子(本41)前会長のとときでした。早いものでそれから十年になります。☆過去十回分の会報を並べ、あらためて同窓会のこの十年を振り返りました。同窓会は生き物でありそのときそのときを映して変化していくものであることがよくわかります。☆二十一世紀にかけて、同窓会はどうな動きをしていくのでしょうか。同窓会だけに閉じこもっている時代ではなくって、い